

サヨリ



生態的特徴等

【生態】体は細長く、下あごが長く突き出る。サヨリは日本沿岸各地のほか、台湾、朝鮮半島沿岸まで分布する。一般には沿岸域の表層に分布し、大きく移動しないとされるが、水温変化の大きい海域では、夏に北上、冬に南下する季節回遊が知られる。茨城県沖のサヨリは、仙台湾～常磐海域に産卵場をもつローカル群と考えられている。産卵期は春から初夏で、藻場、流れ藻、浮遊物に産卵する。餌は小型の甲殻類や動物プランクトンで、早いものは満1歳で成熟する。寿命は2歳と考えられており、最大40cm程度となる(図1)。

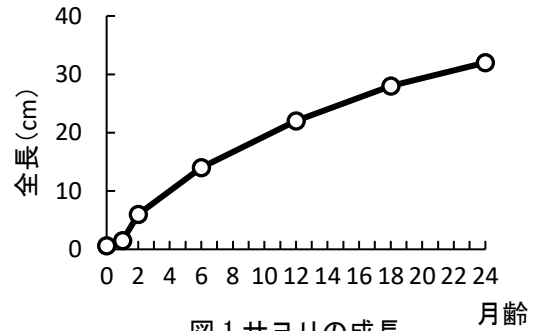


図1 サヨリの成長

【漁法と盛漁期】さよりひき網(2そう曳)で漁獲される。漁期は12～5月で、盛漁期は2～4月。茨城県では、平潟、大津、久慈、大洗地区の水揚げが多い。

【利用】干物や天ぷらで食されるが、体長が30cmを超える大型のものは「かんぬき」と呼ばれ、刺身、寿司だね用として特に高値で取り引きされる。

資源水準は高位、動向は増加傾向

(漁獲量) 漁獲量はさよりひき網で集計した。過去には600トンを超える年もあったが、近年は20～40トン程度で推移していた。R7年は7トンの漁獲であった(図2)。

(水準と動向) 漁獲量は海況に大きく左右され年変動が大きいことから、来遊資源として評価した。茨城県の過去30漁期年のCPUE(kg/隻・日)の推移から、水準は「高位」、直近5カ年の傾向から、動向は「増加」とした。(図3)。

水準



動向

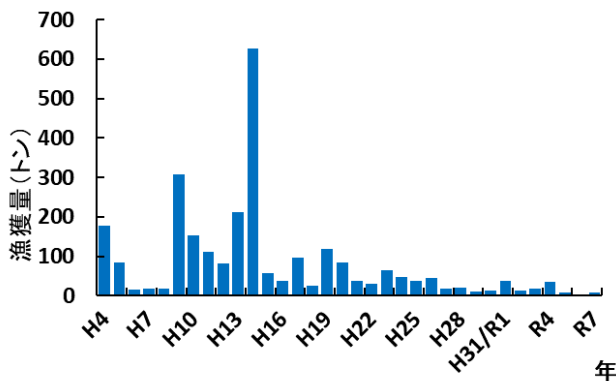


図2 サヨリ船びき網漁獲量

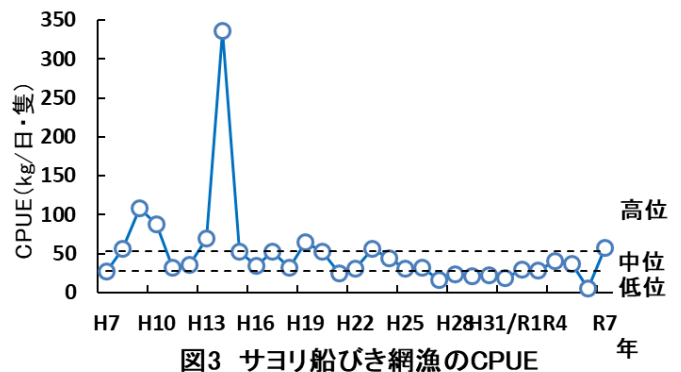


図3 サヨリ船びき網漁のCPUE

【全国の漁獲動向】

- ・全国漁獲統計はないが、主な産地は、北陸、常磐・房総、東海、瀬戸内海となっている。